



人もねこも一緒に支援プロジェクトで大切にしていること

トントン。「こんにちはー！ねこの小池ですー」そう言って今日も家庭訪問をします。人もねこも一緒に支援プロジェクトで大切にしていることは、支援家庭と関わり続けることです。全頭の不妊手術が終わった後のお家にも、2～5ヵ月に1回のペースで家庭訪問をしています。そこで、キャットフードのお裾分けをしたり、前回の訪問から今回の訪問までの間に亡くなった猫の名前を聞き取ります。あとは、飼い主さんと一緒にただただ「可愛いですねー」と猫たちを愛でます（笑）。

増えすぎてしまった猫たち全頭に不妊手術をすることで、お家の環境改善に向けた大きなひと山を越えますが、収束への道のりは長く険しいものです。亡くなっていく子を看取るのは、何度経験しても辛いものですし、近所の方や、あまり深く知らない方から苦言を言われることもあります。そういった時に、飼い主さんの心が折れてしまわないように、ゆるくながく繋がり続けて、「ずっと応援してますよ、頑張っているの見てますよ！」のメッセージが届けばいいなと思っています。



プロジェクト発足当初は月1回の家庭訪問を目指していたのですが、現在は2～5ヵ月に1回の家庭訪問に変わってきています。その背景には、安定してきたケースが増えたことも理由の一つですが、対応ケースが増えすぎたことも大きな理由です。去年くらいまでは、「家庭訪問日」と一日休みを取れば全部のお家を回ることはできたのですが、最近はそうもいかなくなってきました。現在関わっている多頭飼育家庭は10件。京都市3件、川西市1件、豊中市2件、堺市1件、東大阪市1件、加古郡1件、大阪市1件と、かなり広範囲になり、最短ルート出回っても300kmの移動が必要になるので、朝から動いても1

日では回りきれなくなりました。高速代やガソリン代もなかなかの出費になります(汗)。自分たちも無理しすぎないように、飼い主さんたちとずっと関わっていけるように、無理のない範囲で、飼い主さんの安定具合に合わせて訪問頻度を調節しています。

■多頭飼育崩壊ケースのその後

人もねこも一緒に支援プロジェクトが発足して約4年半。マガジンでは、積極的介入期が終わった直後の事例報告を何度か掲載してきましたが、数年後については書いたことが無かったので、今回は、関わって5年目になるケースの現在を共有したいと思います。

■ケース A

2017年12月発行の第31号対人援助学マガジンに多頭飼育崩壊支援の事例紹介として掲載したケースです。詳しくはマガジンを遡って読んでいただければと思いますが、概要を簡単に説明すると、ペットの不可の市営住宅で、保護した猫を飼い始めたところから室内で繁殖を繰り返し、78匹にまで増えてしまっていたケースです(31号のマガジンは77匹となっていますが、手術直前の出産や去勢済みの猫さんの出現などあり、最終78匹で確定しました)。飼い主さんは家族4人暮らしで生活保護を受給しています。生活支援担当のケースワーカーさんより協力要請をいただき、連携機関としては、①生活保護のケースワーカーさん、②人もねこも一緒に支援プロジェクト、③子ども若者支援室のカウンセラーさん、の3機関での介入でした。

2017年の6月から関わりが始まり、8月下旬に全頭に不妊手術が完了しました。手術後は全頭を飼い主さん宅に戻しました。このマガジンを書いている現在が、2022年の2月なので、介入開始から約4年半が経っています。

現在、猫の頭数は34匹。当初より44匹減少しています。その内訳は4匹の子猫は里親に譲渡し、残りの40匹は死亡頭数です。猫エイズをみんなが持っているうえに、2,3匹から78匹にまで増えてしまっているため、体が生まれつき弱く、若い猫さんの方が早く亡くなる傾向にありました。

お家の中の変化と言え、家の中の大掃除を市のゴミ屋敷担当部署の方々と一緒に実施しました。壊れて放置されていた冷蔵庫や洗濯機を捨て、物置と化していたお風呂場を復活させることができました。その他には、当初は引きこもり状態と言われていたお兄さんが、ケースワーカーさんたちの力添えをうけて就労支援施設に通うようになりました。

ケース A の個体管理表

死亡日	タグN	名前	性別	生まれ	毛色	手術	特記事項	里子	4
2018/6/22	1	はく	オス	2011	シャム	不可	脳性マヒ疑い	死亡	40
	2	オスカ	オス	2015	キジトラ			生存	34
2017/10/11	3	にゃんまる	オス	2016	グレー	2017/8/28			2022/2/28 時点
	4	のり	オス	2016	白黒	2017/8/28			
	5	サム	オス	2014	白灰	2017/8/28			
2017/11/12	6	ひちのすけ	オス	2017	グレー	2017/8/28			
	7	まろくん	オス	2017	グレー	2017/8/28			
	8	れん	オス	2015	グレー	2017/8/28			
	9	とむ	オス	2011	白黒	2017/8/28			
	10	まいける	オス	2014	白黒	2017/8/28			
2020/4/11	11	ふさのすけ	オス	2014	グレー	2017/8/28			
2019/2/9	12	じじ	オス	2016	黒	2017/8/28			
2019/4/5	13	だいご	オス	2015	白灰	2017/8/28			
	14	あーのすけ	オス	2016	シャム	2017/8/28			
2017/8/31	15	ゆう	オス	2014	シャム	2017/8/28			
	16	けんしろう	オス	2016	白灰	2017/8/28			
2020/10/1	17	たろう	オス	2015	グレー	2017/8/28			
2017/11/12	18	ろき	オス	2014	白灰	2017/8/28			
2020/1/14	19	とらのすけ	オス	2011	キジトラ	2017/8/28			
	20	だいすけ	オス	2012	白灰	2017/8/28			
2017/12/30	21	なんじろう	オス	2012	キジトラ	2017/8/28			
2018/11/30	22	そらた	オス	2013	グレー	2017/8/28			
	23	げんき	オス	2012	黒	2017/8/28			
	24	くまごろう	オス	2014	黒	2017/8/28			
	25	こてつ	オス	2011	黒	2017/8/28			
2017/10/28	26	しんのすけ	オス	2011	グレー	2017/8/28			
	27	たく	オス	2013	グレー	2017/8/28			
2017/9/8	28	そうた	オス	2014	グレー	2017/8/28			
	29	レオン	オス	2015	シャム	2017/8/28			
2020/6/13	30	だいじろう	オス	2013	白灰	2017/8/28			
	31	さんじ	オス	2014	白灰	2017/8/28			
2019/2/10	32	ひかり	オス	2014	白	2017/8/28			
2018/9/24	33	くろべえ	オス	2013	黒	2017/8/28			
2020/8/20	34	まめすけ	オス	2014	黒	2017/8/28			
2017/11/6	35	きんた	オス	2013	グレー	2017/8/28			
	36	こるね	オス	2014	白灰	2017/8/28			
2021/3/29	37	りき	オス	2007	グレー	2017/8/28			
	38	るい	オス	2014	黒	2017/8/28			
	39	はる	オス	2012	白灰	2017/8/28			
2019/2/16	40	ちょこ	メス	2013	黒	2017/8/28			
	41	るな	メス	2011	グレー	2017/8/28			
	42	ひな	メス	2011	グレー	2017/8/28			
2019/2/11	43	えりか	メス	2014	グレー	2017/8/28			
	44	もも	メス	2010	キジトラ	2017/8/28			
	45	にこ	メス	2017	シャム	2017/8/28			
2019/2/12	46	るる	メス	2016	サバトラ	2017/8/28			
	47	ねね	メス	2015	シャム	2017/8/28			
2018/5/30	48	ひめ	メス	2014	キジ白	2017/8/28			
2021/8/18	49	のえる	メス	2014	白黒	2017/8/28			
	50	こはる	メス	2017	キジトラ	2017/8/28			
	51	らん	メス	2015	グレー	2017/8/28			
2018/8/3	52	みるき	メス	2013	サバ白	2017/8/28			
2020/6/19	53	みる	メス	2013	サバ白	2017/8/28			
	54	さくら	メス	2012	グレー	2017/8/28			
2019/2/7	55	ゆい	メス	2017	グレー	2017/8/28			
2021/7/27	56	やちよ	メス	2015	白灰	2017/8/28			
2019/2/9	57	ななみ	メス	2015	白灰	2017/8/28			
	58	なな	メス	2011	黒	2017/8/28			
2017/9/28	59	めぐ	メス	2014	白黒	2017/8/28			
	60	なっちゃん	メス	2013	黒	2017/8/28			
	61	ここ	メス	2011	グレー	2017/8/28			
	62	べこ	メス	2017	白灰	2017/8/28			
2020/5/30	63	はいじ	メス	2014	キジトラ	2017/8/28			
	64	こみつ	メス	2015	黒	2017/8/28			
2019/2/19	65	えるぞ	メス	2015	シャム	2017/8/28			
	66	きつき	メス	2013	白黒	2017/8/28			
	67	めい	メス	2013	白黒	2017/8/28			
2020/3/28	68	びび	メス	2014	白灰	2017/8/28			
2017/12/25	69	みみ	メス	2012	白灰	不可	口呼吸		
	70	るーしー	メス	2012	シャム	2017/8/28			
	71	くろこ	メス	2012	黒	2017/8/28			
	72	ひまり	メス	2012	グレー	2017/8/28			
2019/2/5	73	かれん	メス	2013	グレー	2017/8/28			
2017/10/8	74	こまち	メス	2012	シャム	2017/8/28			
2019/2/11	75	あん	メス	2015	黒	2017/8/28			
	76	さもん	オス	2015	黒	2017/8/28			
2021/7/29	77	あいちゃん	メス	2013	黒	2017/8/28			
2018/8/20	78	てん	オス	2017	黒	未手術	一斉手術前日生まれ		

ネガティブな事件でいうと、「子猫を里親に出したくない事件」がありました。全頭に不妊手術を実施する前日に生まれた1匹の子猫がいました。もちろん生後1日では避妊手術はできません。飼い主さん家族と相談をして、この子猫が離乳したら里親募集をして譲渡しましょう。という約束になりました。そして、2ヵ月ほど経過し、子猫が完全に離乳をした頃に「そろそろ子猫の里親募集用の写真を撮りに行きたいと思うのですが・・・」と電話を入れたところ、飼い主さん家族から「家族で話し合った結果、この子は里親に出さずにうちで育てようと思います」という驚きの返事がきました。それだけならまだしも、さらに話は続きます。「この子は家で育てますけど、元気な1歳くらいの成猫を里親にだしてくれませんか？」と言われたのでした。

え・・・、78匹の家にいるのにまだ増やしたいのですか？というか、可愛い子猫は手放したくないけど、成猫はどうでもいいんでしょうか？怒りがこみ上げ、電話口でキレてしまいそうになる自分を抑え「ちょっと、それは難しいと思うので、もう一度ご家族で話し合ってもらえますか？私もちょっと考えます。」と言



って電話を切りました。

いやいやいや、言ってる意味が分かりません。このモヤモヤとイライラを体に溜めておくのは不健康なので、臨床心理士のスタッフの元へ話を聞いてもらいに行きました。

「かくかくしかじかありまして、子猫は可愛いから手放したくなくて、成猫はかわいくないから里親に出してほしいなんて、酷すぎる。今めっちゃイライラしてるんです。」と話したところ、「家族の関係性ってどういう感じですか？」と聞かれました。「関係性？うーん、猫のことをやる時はみんなしっかり協力してくれるかな。でもよくケンカもしてるかな。」と返すと、心理士のスタッフは「あくまで一つの見解ですが、猫が家族の鎧（かすがい）としての役割を担っていると考えた場合、基準になるのは“可愛い・可愛くない”ではなくて、“依存度”になるかなと思います。例えば、病気の猫は通院の手間があったり、餌を変えたりと手がかかりますよね。手がかかると、人同士の会話や結束が生まれる。猫も人に依存しているし、人もそんな猫に依存している。という関係性があるかもしれません。そう考えると、生まれたての子猫は手がかかるし、依存度が高い。それに対して、元気な成猫は手がかからないので依存度が低い。そういう風に解釈することもできるんじゃないかと思います。」という意見をくれました。なるほど・・・そう考えるとイライラが半分くらい収まりました。でもまだ、半分はイライラモヤモヤが残っているので、連携機関の子ども若者支援室のカウンセラーさんにも連絡をとりました。

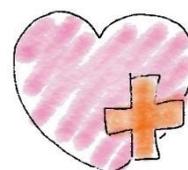
「かくかくしかじかありまして、めっちゃイライラしてたのが半分くらいにはなったんですけどどう思いますか？」と聞くと、カウンセラーさんは「最近の面談を通して感じたことなのですが、今飼い主さん家族が初めて猫の“死”と向き合っているような気がします。手術をする前の方が毎月の死亡頭数は多かったんですが、それを上回る出産があったので、これまではあまり死ぬということに向き合わずに済んできたんです。でも、今回全頭の不妊手術が終わって、生まれるということが一切なくなった状態で、時々亡くなる子がいます。それで、初めて猫の死と向き合って、自分たちが手術をしたから死んでしまったんじゃないかと、かなり揺れている様子があります。その中で、唯一成長過程にいる子猫さんは家族にとって光のような存在なのかもしれません。」という意見をくれました。

さすがの私のイライラも2人の心理士さんの冷静な意見のおかげで収まりました。そして、相談の結果、子猫は里親に出さずお家に残す代わりに、子猫の手術費用はもう助成を使えないので、捻出する方法として就労の相談につなげていくということになりました。

これが子猫を里親にだしたくない事件です。この事件から学んだことは、ケアギバーズケアの重要性です。ケアギバーズケアとは、ケアを提供する人のケアをする体制のことだそうです。心理士や福祉士といった心の専門家であっても、傷つきやすい一個人であることに変わりはなく、支援を提供する人をケアする体制をつくることはとても重要であるという考え方です。今回、意図せずですが私の人もねこも一緒に支援プロジェクトのスタッフには臨床心理士が2人も在籍してくれており、すぐに相談できる体制がありました。加えて、支援対象の家族に関わっているカウンセラーさんとも気軽に話をできる関係があり

ました。今回、2人の冷静なサポートがなければ、私はイライラを飼い主にぶつけて喧嘩になり、最悪支援が途切れてしまっていたかもしれません。飼い主に怒りをぶつけることなく、私が精神的に病んだりすることなく、支援を継続することができた要因は、意図せずもケアギバーズケアの体制ができていたことだと感じました。

全国では、多頭飼育崩壊ケースに民間のボランティアさんが介入する事例が多くあります。多頭飼育崩壊の現場は、猫の生活環境が劣悪なところばかりです。そこに猫が大好きなボランティアさんが介入するんですから、ボランティアさんの精神的なダメージは相当なはずですが、それでも毅然として対応しなければいけない、しんどいというのは甘えだ、と自分を奮い立たせるのではなく、しんどくなって当たりまえなんだという前提で、自分の心を、ボランティア仲間を守る方法を考えていくことも必要だと思いました。



関わりつづけること。考え続けること。

多頭飼育崩壊ケースでも基本は飼い主さん宅に全頭返す方針で、多頭飼育ケースに関わってきました。全頭を保護してスピード解決！ということにはなりません、その代わりに並行して沢山のケースに関わることができていると思います。

最近、京都市動物愛護センターと協働し、地域包括支援センターや社会福祉協議会さん向けに多頭飼育崩壊についての講座を4回ほど実施したり、大阪市の動物愛護推進員さんむけの研修で多頭飼育崩壊の理解とその支援について講師を担当させていただいたりしました。そのおかげで、最近が多頭飼育ではあるけれど、崩壊前の段階で相談をいただける機会も増えてきました。これは、予防の観点から考えてもとてもうれしい事です。

これからも地道に自分にできることを積み重ねて、このままで良いのか考え、記録を共有していきたいと思っています。



おわり



小池英梨子

活動：NPO 法人 FLC 安心とつながりのコミュニティづくりネットワーク

「人もねこも一緒に支援プロジェクト」 プロジェクト代表

仕事：猫専門のお手伝い屋さん「ねこから目線。」として開業。

ご意見・感想・お問い合わせ：e.kosame12@gmail.com